

談 想

北中支那視察より歸つて

安東省土木廳長 米 田 正 文

本文は康徳七年七月九日遼河治水調査處會議室に於ける旅行談の速記の要領である。

先月の廿一日から今月の七日迄、十七日間、北支中支方面を旅行したのでありますが、今度の旅行の目的は北支、中支の港灣、運河の現状を視察して來やうと云ふのが、主な目的でしたけれども私はその他に一體どう云ふ風に、北支、中支が動きつゝあるか、それから、東亞新秩序建設に於て、北支、中支が、現實にどう云ふ役割を果しつゝあるか、翻つて滿洲と云ふものはどう云ふ役割を受持たなければならんか、と云ふ様な事を汽車の中で考へながら行つて來たのであります。

今日は數字的な事はお話する余裕もありません。又余り興味もないかと思ひますので、漫談的にお話致します。私の行つたコースは新京から天津に行き天津に二晩泊つて、その間に塘沽に参り、又天津に歸り、それから北京に行つて二晩泊り、更に黄河附嶽を上から見る爲に飛行機で南京に行きまして、南京に二晩泊つて汽車で上海に行きました。上海で五晩泊つて歸りは船で青島に行き、半日居りまして、同じ船で大連に歸つて來ました。

廿二日の朝天津に着きました、浦上君拔川君等が迎ひに來て呉れました、所が、寢台に乗つて居つた間に靴をとられて了ひ、車掌の好意でスリツバを借りて、とぼとぼ降りまして早速建設總署天津工程處に行きまして、本庄さんの靴を一時借りましたが、

此の靴が又大分大きい靴で靴の中で足ががた、がたする位大きな靴でした。そこで早速靴を買ひに行つたんですが、五六十圓するのでどうも高い靴を買ふのもつまらないので、まあ大きな靴で我慢を仕様と云ふ事で其儘はいて居りました。之は金の關係を申上げなければ解らんのでありますが、僕の行つた時は北支に入るには五十圓より現金を持つて入つちやいけなかつたのであります。靴を買つたら無一文になる恐れがあり、北京に宛て送つてあつた三百圓も北京まで行かねば受取れない仕末でした。扨て天津は恰度租界が開放された翌々日でありました。天津の街の地圖で申しますと色の塗つてあるのが租界で日本租界、英吉利租界、伊太利租界、佛蘭西租界と特別區域があります。昔の獨逸租界だつたのは今は支那に返還して居ります。露西亞の租界も昔はあつたのでありますが、今は返還して居ります。所で此の天津が一番感ずる事は天津の眞中を流れて居る河之を白河と普通言つて居りますが、或は海河とも云ひます此圖面にも海河と書いてあります。その兩岸が物揚場になつてゐて、荷物が山積して居りました。之は特に租界が隔絶されて居つたので、租界には荷物がなくて此の租界を除いた河の兩岸に山積して居つたわけです。恰度私等が行つた時に隔絶が解けたので、荷役が初つたと云ふ時でありました。天

津で見物する所は租界であります。英吉利租界、佛蘭西租界は非常にきれいな街であります、一度日本租界に入ると非常に見劣りがして街は混雑して居るし、家は小さいし、道幅は狭いし、文化の程度がその位に違つて居ると云ふ風にはつきりと感ぜられるのであります。日本の文化の力と云ふものが、はつきりと對照的に解る所であります。その上人間は非常に多くて、何とか街を整理しなければならんと云ふ感じが強くするのであります。外國の租界は道路が廣い實にすつとした感じであります。

白河の河口、に塘沽と云ふ所がありまして、天津から約四十八海里あるのであります。此の河は御承知の様に非常に性の悪い河でありまして、天津港の改修計畫の爲に、この四十八哩を二十八哩に縮めたのであります。從來の流路にショートカットをやつて廿哩縮めて廿八哩にしたのであります。天津で潮か三寸しか影響がなかつたのが、七尺影響するれうになつたので満潮を利用すれば非常に大きな船がうまく入るのであります。從來水深は十尺位でありましたが現在は十七尺位になり二千噸位の船が自由に入るのであります。白河は遼河と同じ流域の大きさを持つてゐて廿三萬平方キロであります、此の河は地圖で御覽の様に五つの河が集まつて來て居ります。即ち北運河、永定河、清河、子牙河、南運河、と云ふ様に五本入つて居ります。名前は運河でありますけれども實際は河であります。此の内でも北の方の河が非常に悪く、恰度遼河と同じで土砂の多い河であります。河口で土砂量が非常に多く千五百萬立方メートルと云はれ、要するに非常に泥の多い河であります。これは主として永定河並に北運河の影響であります。天津附近の河状を見て廻つたのであります、此邊には放水路があり其爲に水門があり又船も通らなければならんとするには閘門があります。こ

う云ふ河川構造物は黃河流域、白河流域、揚子江流域に非常に澤山あります。隨所にウェアアンドロツクが澤山あります。此點支那人は仲々經濟的に拵へて居ります。

塘沽では今非常に大きな仕事をやつて居ります。さつき言つた海河と云ふのが、此の塘沽に流れて居まして、此の處に港を築くので今五ヶ年計畫でやつて居るのであります。將來は天津と塘沽を一緒にして發達させて行かなければならぬ街であります。從來海河改修のために海河工程局と云ふものがあつて英吉利人の技師長が居りその下にやはり英吉利人を重要なスタッフに使つて、すつと下の連中には支那人を使つて居ると云ふ役所があります。之は領事團が集つて作つた團體で、この團體が工程局を形成し此の天津港の浚渫維持と云ふものをやつて居るのであります。今内務省の柳澤技師が副技師長として入つて居ります。副技師長が七百兩、技師長が千兩、一兩約四圓だそうでありますから、柳澤君が二千八百圓ばかりもらつてゐる譯です。こつちではとても及ばない給料であります。タイピストあたりでも、日本の金にすると三四百圓になるそうです。しかも仕事は大してやつてないで、じつとして居れば良いのであります。非常に結構な役所が此處にあります。

(笑聲) 此の兩と云ふのは今の金と違つて、昔の支那の金であり相場の變動があつてはいけないと云ふので、英吉利人が豫め考へて、そう云ふ變動のない金で月給を決めて居ります。

それから塘沽の築港のために北支新港建設事務局と云ふものがあります。之は會社であつてその親會社は興中公司で是は北支那開發株式會社と云ふのが親會社であります。それは何に屬して居るかと云ふと興亞院の監督下にあります。その新港會社には内務省の神戸土木出張所長をされてゐた高西さんがそ

この局長になつてゐるのであります。その下に狄原、片岡、小田、比田、と云様な技師が居ります。塘沽に行つた時には直ぐ横に鹽田がありまして、鹽田には例の風車が盛んにまはつてゐて春と秋、鹽を作るのだ相であります。満洲にも相當利用出来るのじやないかと考へられました。

夫れから北京の街に入つたのであります。北京は二度目の旅行でありましたが、有名なアカンヤの樹の青々とした中に入つて行つて、非常に氣持が良かったのであります。早速中山公園の中で飯をとつたのでありますが、樹が鬱蒼と繁り、所々に亭があつて常に氣持が良い、樹立の中の各所にベンチがありまして、若い男女連れの散歩が非常に多いところです。北京の街は地圖で見る様に内外城から成つて居り、内城の中に皇居があります。郊外には萬壽山と云ふ公園がありますが、直ぐ近くに圓明苑遺跡があり往時世界一を誇つた大離宮があつたそうですが、清朝末期に壊され、その残りに萬壽山が出来たと云ふのであります。

北京では建設總署に行きまして、事業内容を色々聞きました。建設總署と云ふのは満洲の國道局時代の様な行き方でありまして、殷同と云ふ人が署長でその下に副署長があり、技監があります。總署は總務局、公路局、水利局、都市局の四からなつてゐます。都市計畫が國直轄事業であると云ふのが一寸違つた點でせふ。現場機關には天津都市建設局、北京都市建設局と云ふ都市建設局が二つあります。其の他に北京工程局、天津工程局、濟南工程局、太原工程局と、四つあり、又其の下に施工所と云ふのがあります。北支では科長以上は技正とか、理事官と云ふ言葉を使はないで、科長と云ふ官職名で呼ばれ、其の下は技正是れは技佐に相當するのであります。其の下に技士がある、技佐と云ふのは建設總署には無

いのですが、田舎の縣では技士の下に技佐が居ると云ふ譯で此の前に行つた時にも聞いたのであります。北支に來る時には技佐の人は名刺を持つて行かない方が良いでしょうと云ふことであります。餘談に亙りましたが建設總署は(表を指す)御覽の様に人の數が少いのであります。是れで仕事をやつて居るのであります。仕事の量は、水關係で一千万圓位やつて、其の中の五百萬圓は天津の大水害對策に使つたと云ふことであります。とにかく人は非常に少いのであります。少い上に支那人の勢力が非常に強い壓力を持つて居る、ウツカリして居るとやられて終ふと云ふ様な状況でありました。満洲を非常に羨しいと云ふ様なことを言つて居りました。満洲から行つて居る連中もそろそろ満洲に歸りたいと云ふ様な氣持がある様に見えました。北京の用事を済まして、南京に飛行機で飛びましたが、黄河は例の八本の河道があるのであります。其の八本の河には水がなく堤内地に水溜の多いことに驚きました。黄河の河底は堤内地よりも五米位高い從て河には水がなく堤内地に一杯水が溜つて居る、黄河の本流にも殆ど水がないと、云ふ状態でありました。徐州に一寸降りまして聯銀券を軍票に換へて貰ひました。

徐州の上を通つた時に非常に不思議な、花の輪を畫いた様なのがずつと續いて居るのが、見えました。是れを良く見ると徐州戰の時の塹壕で、無數の山波が立つた様に見えるのであります。夫れは十籽乃至三十籽もの幅で續いて居り。徐州戰の苦戰を偲び得たのであります。南京に着いた時には非常に暑かつた、翌日は遊覽バスに乗り先づ玄武湖に行きました。飛行機の上から見ると汚い水溜りでありまして、地上から見ると蓮の花が美麗で非常に氣持の良い所でありました。夫れから明の孝陵に行きましたが、象、馬、牛さう云ふのが參道の兩側に澤山並ん

で居ります、陵の方は荒廢し盡して、僅かに面影を止めて居るに過ぎないのであります。中山陵は蔣介石自慢のものだけに堂々たる設計で非常に美麗な建物でありました。次に孫文の革命記念碑塔に行きましたが、其の中に入つて見ると中に一杯樂書をしてあります。「福井縣吉田孫兵工」とか「奈良縣何の雅兵工」だとか「何々部隊何とか」其の堂の中を所狭しと書いてある、英語で書いた毛唐の字は全くないのであります。日本人と云ふのは非常に自己意識が強い、俺が來たのだと云ふことを書いてある。俺だと云ふ意識の強いことを非常に強く感じた西洋人の「ジョンソン」とか「チャリー」とか云ふのは書いてないどころも日本人の缺點をあまりはつきり見て氣持が悪くなりました。

夫れから光華門夫子廟を見て見物を終り、新政府の水利委員會に寄りましたが、委員長が居らないで科長に會ひ、水利の狀況、計畫、さう云ふものを聞いた後で、此方で遼河の話をしてやると、遼河の事業は北支でやつて居るのかと云ふことであります。非常識なのか特に意識して云つてゐるのかよく分かりませんでした。仲々滿洲國を認識して居らないと云ふことが良く解りました。是れから一つ若い連中で手を握つて東亞を擔つて行かうぢやないかと云ふことに一致し、是非滿洲を見に来る様だ勸めておきました。要するに滿洲國や支那新政權に對する一般の認識を得ることはまだまだ大變である、是れからであると云ふ感を非常に深くして來ました。

南京は革類が廉いので多少革類を買つて上海に行きました。南京上海の間は特急五時間、「天馬」と云ふ急行が通つて居ります。上海では早速新亞ホテルに泊つたのであります。翌日早速租界を見物に出かけました。上海は地圖で見る様に揚子江の支流黄浦江から、上流約四十軒の間に、現在の市街がある。

蘇洲河と云ふ河がありますが、夫れを距て、左岸が日本の勢力、右岸がイギリスの勢力、其の下がフランスの勢力、と云ふ格好です。大場鎮や廟行鎮や吳淞砲台なども、上海の近郊にあります。日本勢力租界からガーデンブリツヂを渡ると有名なバンドの一帶であります。バンドと云ふのは海岸通りと云ふ意味であります。ガーデンブリツヂ附近でたまたま瓜を何百と積んだトラツクが行くのを、支那人が盛に奪略する光景を目撃しましたが、その車に乗つて居る連中も知らん顔をして居るし、巡査も知らん顔をして居る、自動車も平氣で走つて居る、とにかく、どつちもスピーデーな仕事をして居るのであります。あれはどしたのだと云ふと、何時もああなんだと云ふことであります。うつかりして居ると何を盜られるか解らないと云ふのですが、併し、そんなことは支那人にとつてはちつとも不思議ではないので、盜られるのも悪いし盜るのも悪い、盜る方と盜られる方が同じ權利である、盜つたら返へせば其の場で済む、盜ると云ふ觀念はさほど罪惡ではない、併し夜は危くして抗日分子などに命迄も盜られると云ふ譯です、英國租界が抗日分子の巢なんです、日本人を非常に輕視して居ります。日本人なんと云ふのは野蠻人であると云ふ様な顔をして居ります。日本人と云ふのは東洋人と云ふ名稱で呼んで居ります。日本と云ふものを非常に馬鹿にして居る所なんです。英國租界が其の極端なものです實に癪にさわる所です。なんとかせねばならぬといふ氣がします。英國勢力租界は建築物なども堂々たるものが櫛比して居る、道路幅は狭いが、其の間を二階の自動車を通る、是れが町並の二階と同じ位の高さで、自動車の二階の窓と建物の二階の窓と同じ位です。ディーゼルエンジンで車體も美麗で、涼しくて、實に氣持がよい、この營業成績は非常にいいとの事でした。電車も無軌道の

奴が通つて居ります、ゴムタイヤの電車で、上の方にボールだけ附いて居つて、前の方に邪魔物があるとそれを巧みに除けて通つて行くと云ふ様な調子で非常に便利であります。只住んで居る外人及支那人が、非常に癢に觸る態度です。目抜きの通りに午後三時頃から、何千と云ふ商賣女が出て来る、是れを野鷄子と呼んで居りますが鷄と云ふ奴は元來行儀が悪いもので、夫れが野鷄と云つたら更に行儀が悪いと云ふ意味でせう、夫れが何千と午後の三時頃から出て居ります。恰度野鷄子の觀兵式見たいなもので、其の間を歩く譯であります但日本人と見ると呼び掛ける日本人と限つて居る様で甚だ夫れが残念でありました。(笑聲)上海のデパートでは日本では賣つてないものを賣つてゐるものがあると云ふ、それは支那のデパートでは女を賣つてゐる、デパートの裏がホテルになつて居つて、女が其處にやつて來て交渉が整へば、直ぐ裏のホテルに行くと言つた様な調子でありました。野鷄子こそ我々日本人に對しては盛んにモーションをかけるけれども、後の一般市民は實に日本人に冷淡である、悪く云へば輕視して居ります。或は敵愾心を持つて居ります。市中見物の談はこれ位にしまして上海では私は主として河港を調べたのでありますが、揚子江口から吳淞迄揚子江本流筋が七十籽ありまして、これから支流黃浦江に入りますが、この合流點から上流四十籽の間が大體全部荷役出來る様になつて居ります。一年間二千萬噸位の荷物を扱つて居る様です。船も一萬噸扱のものが入つて來ます。上流には土砂の出て來る様な河がなく河狀維持は良好で、土砂は寧ろ揚子江の方から入つて來る様な状態でありまして、これは簡単な導流堤で解決してゐる。只だ揚子江の出口に砂洲があり、河幅は四十籽もありまして、其れが南北兩水道に分れ、現在は南水道が利用されてゐるが、水深二

十四五尺なのを三十尺にし潮と關係なく、一萬噸級の船が入る様にすると云ふのであります。世界で一番大きな「建設」と云ふ浚渫船を持つて居ります。是れは六千馬力のエンジンを持ち三九〇〇立方メートルのホッパーを持ち總噸數九千噸と稱せられる浚渫船でありまして、世界一と稱して居りますがこの程度の船が二隻あれば恰度揚子江の江口浚渫が出來ます。一隻は五年前に出來て、もう一隻は註文中でした。オランダにもう出來て居るのださうであります。其の受取方にイギリス人の技師長が行つて未だ歸つて來ないと云ふことでした。此の河港維持をどう云ふ組織でやつて居るかと言ふと、支那政府の特殊機關として濬浦局なる支那の特別官憲があつて、これは一切の權限を政府より委託されて居るので、獨立官廳と同じであります。外交團とも關係を持つて居りまして、現在はイギリス人の技師長と副技師長に海軍大佐の藤澤と云ふ人が居りまして、其の役所には命令が二つ來る、一つは重慶政府から、一つは南京から來る、何とかならんかと云ふと何ともならないと云ふのです。其の役所の上に旗を立てゝ居るのですが重慶の旗を立て居ります。兩方命令が來るので仲々忙しいと云ふ話であります。(笑聲)夫れが何ともならない様な状態にあるのであります。此處でも又イギリスの勢力と蔣介石政權の侮り難き勢力と云ふものを非常に感じたのであります。

かう云ふ風に抗日意識がまだまだ非常に強いのです。仲々大變だと云ふ感じを深くしました。上海に於ける學校、研究所としては、同文書院と上海自然科學研究所とがあります。土木事業としては中支那開發株式會社の子會社の上海恒産株式會社と云ふのがありまして、大都市計畫をやつて居ります。資本は二千萬圓日本と支那との協同出資と云ふ形式で、一億圓の事業を五ヶ年間でやろうと云ふのであ

りました。港の方にはこう云ふ切込を拵へて一萬噸の船を入れやうと云ふ事でした。蔣介石政權時代既に此の計畫に着手したものだそうで、今の上海の市政府がぼつんと一つ建てられてあります。切角やりかけて居つたらしい形跡が見えますが、大體は何にもない原つばであります。道路が多少出来て居ると云ふ様な状態でありました。それを引繼つて今の恒産會社が道路を拵へ宅地を拵へてやつて行くことになつてゐます。上海はクリークが非常に發達して居りまして之は圖面の上で見るともつと細くもつと無數のクリークがあるのでありますが、何處でも小船が行ける様になつて居ります。此の中で戦争をしたのですから日本軍の苦戦したのも無理ないと思ひます。凡ゆる所に縦横無盡にクリークがあります。上海は詳しく河も見、街も見、色々な計畫事業もみて來ました。色々な数字的な事で若し御必要があれば何時でもお話し仕様と思ひます。此の黄浦江の話一つでも仲々面白い技術的な事柄が多いのであります。

歸りには船で青島に寄つて來ました。青島も築港計畫をどんどんやつて居ります。青島の計畫で特に新しい點は、現在の青島市と稱するのはほんの僅かな面積であります。今度計畫される廣さは八萬平方キロ、滋賀縣の倍あるそうであります。之が恐らく今後起つて來るであらう所の地方計畫の先驅であります。大體以上の様な見聞をして大連に上つて歸つて來ました。

要するに私の見た感じを結論的に申しますと云ふと、支那で今一番やらなければならん事は、何かと云ふと、やはり治安第一主義でなければならん、治安、宣撫の時代である。今迄の教育の是正工作をやらなければならんと云ふ事が第一であります。北支中支、南支、の開發經營と云ふ事は一通り開發し盡

して居ると云ふ事であり、今後の開發は根本觀念をかへてかゝらなければならぬものであると思はれるので、早急開發は容易でない總じて滿洲蒙疆、北支、の開發が先決問題であると云ふ風に考へられました。之は國策となつて現れて居る事で、近衛聲明の本當の味ひと云ふものは、向ふに行つて、初めて解つた様な氣がしました。支那も今どうこうして開發仕様と云ふ事は無理であつて善隣善交と云ふ關係で、現在の支那の民衆を宣撫して提携して行かなければならん、勿論、經濟提携は必要だから、その爲の交通整備の仕事丈を先づ進めるといふ方針は非常に結構と思ひました。之等の事業に關係してゐる日本人は相當にあせつて居ります。資金とか物とか色々うまく行かないと云ふ事で非常にあせつて居る。今日の仕事をあせり過ぎて居ります。英吉利人の瀋浦局の技師長以下全員は事變以來日本の海軍から押へられて、全然仕事がないのに二百名の局員が三年の間、何にもしないで、じつと研究をやり事業報告書を書いて居つたのであります。だからあそこに行くと、レポートが澤山出来て居ります。今迄やつた所のデーターを集めて將來の參考にせしむる爲に、色々な、レポートを書いて居ります。ゆつくりして次の時代を待つて居ると云ふ様な、粘り強い所はやはり大陸的な國民のやりかたであると云ふ感じがしました。こう云ふ所が、どうも日本人は非常に急ぐ性質があります。一日仕事がないと云ふと氣分が悪いと云つた様な調子であります。仕事がないからと云つて神經衰弱になつてはいけないと思ひます。結局あせらないで、ゆつくりやれと云ふ様な事が云はれて居りますが、本當にそうでなければならんと云ふ事を實感を以つて味つて來ました。

あまり長くなりますから此の程度にしてお話を終る事にします。 (終り)